

# Press Release



報道機関各位

2021年9月3日

株式会社VAZ

## モデル・女優として活躍中の「ゆな」、 「私の卒業」プロジェクト YouTube ドラマ 「変えられない私たち」で初のドラマ主演決定！

この度、株式会社VAZ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小松 裕介）は、当社所属タレントの「ゆな」が、2021年9月17日（金）19時公開の「私の卒業」プロジェクト YouTube ドラマ「変えられない私たち」にて、主演を務めますことをご知らせいたします。



「変えられない私たち」は、若手俳優発掘育成プロジェクト「私の卒業」から生まれた大ヒットシリーズ「7時45分の君」「僕らはいつだって遠回りしている」各話に登場した2人のキャラクターの卒業後を描く続編です。

「ゆな」は、前作「僕らはいつだって遠回りしている」でも好評を博した「澤田花蓮」役で、ドラマ作品での初主演を務めます。

「変えられない私たち」は、「私の卒業」プロジェクト公式 YouTube チャンネル（URL：<https://www.youtube.com/channel/UC6BmvlHvuc4FVG7XjDrVZoQ>）で9月17日（金）19時より公開となります。

お問い合わせ先 株式会社VAZ 広報担当：村上

Mail：support@vaz.co.jp TEL：03-6427-9523（受付時間10時～18時）

# Press Release

---

## 【番組概要】

番組名 私の卒業プロジェクト「変えられない私たち」

あらすじ 茨城県笠間市から上京し、都内の大学に通う藤井彩（喜多乃愛）。昨年1年間リモート授業で、自宅で過ごす日々。大学に通うことができなかつたため、学生たちと交流をしないまま大学2年になった。地元の友達とも疎遠になり、彼氏とも別れて、いつしか一人ぼっちになっていた。そんな時、一人の青年（萩原利久）に出会い、学内を探検しようと提案を受け、渋々ついていくことに。一方で、長野県千曲市出身の澤田花蓮（ゆな）。上京を決意し、大学に通い始めたのは「過去を変えたい」という強い思いがあったから。両親が離婚して荒れていた時期、一人をターゲットにいじめをしていた過去。ある日図書館を歩いていると「過去は変えられない H」というメッセージを目にする。この言葉を書いたのは誰か？先輩の優香（伊藤千由李）にも相談し、花蓮は「H」を突き止める。

出演 喜多乃愛 ゆな  
伊藤千由李 / 萩原利久 草川拓弥（超特急）

配信予定日 9月17日（金）19時～

監督 北川瞳

脚本 鹿目けい子 高石明彦

プロデュース 高石明彦

企画協力 帝京大学

番組 URL <https://www.youtube.com/channel/UC6BmvlHvuc4FVG7XjDrVZoQ>

番組 SNS Twitter : <https://twitter.com/sotsupro>

# Press Release

---

## 【出演】 ゆな



2004年11月7日生まれ、北海道出身。

明るい笑顔と愛されるキャラクターを武器に活動中。YouTube番組「CulTV」のレギュラー、「おんがくキッチン」のMCを務める他、雑誌「Popteen」の専属モデル、テレビ出演などマルチに活躍する女子高生クリエイター。

YouTube :

<https://www.youtube.com/channel/UCsTM1roCxoot1-03EO5zQxg>

TikTok : [https://www.tiktok.com/@yuna\\_1107](https://www.tiktok.com/@yuna_1107)

Instagram : [https://www.instagram.com/\\_yunachannel/](https://www.instagram.com/_yunachannel/)

Twitter : [https://twitter.com/\\_yunachannel](https://twitter.com/_yunachannel)

## (コメント)

オファーをいただいたときは、本当に嬉しい限りでした。実は、初めてワークショップで花蓮を演じた時から自分でも手応えを感じていて、その時北川監督にもお褒めの言葉をいただいたのを覚えています。前作は、撮影現場でその手応えを活かしながら、共演者の方々と協力して作り上げた作品でした。ありがたいことに観ていただいた方からも好評なコメントを多くいただいていたので、「まさか続編をやらせていただけるとは！」と、感激しました。

「僕らはいつだって遠回りをしている」の時の花蓮とは別人のように話し方や性格が変わっていたので、撮影直前までどう演じるか悩んでいました。前作を知ってくれている方にも、同じ”花蓮”であるということが伝わるように、そして成長をわかっていただけのように演じ切りました。

完成作品を観て、私自身も花蓮たちの成長に勇気づけられるように思いました。今回の作品もまた、何度も見返していただけるような愛される作品になることを願っています。